

平成9年度(1997年度)事業計画書

当協議会はこの2月で設立7周年となり、創立期からいよいよの基盤強化の第2段階の時期を迎えます。

この7年間に振り返りますと、啓発普及・情報集配・調査研究・顕彰・国際交流・助成の各事業を会員各位の多大なご協力を得て鋭意進めてまいりました。その結果、

- ①メセナという言葉は、マスコミ、日常の会話や文章のなかで広く使われるまでになり、全国で知られるようになった。
- ②企業メセナも着実に根付きつつある。『メセナ白書』によれば実施企業数や資金援助総額は厳しい経済環境にも係わらず堅調を示し、メセナ予算をもった企業、担当部署を設置した企業も確実に増加していることが明らかとなっている。
- ③日本各地に徐々にではあるが、メセナに関連する組織が誕生している。これは芸術文化支援と云う考えが各地に広く浸透しつつある証左と見ることができる。
- ④欧米諸国に比べかなり遅れて発足した当協議会も、1昨年の「国際メセナ会議'95」を契機に世界的に存在が認められるようになった。
- ⑤特定公益増進法人の認可取得により、メセナ税制確立に向けて一步を踏みだし、芸術団体や企業に貢献できるようになった。

などの成果を挙げる事が出来ると考えます。

しかしながら、会員数の推移にみられるように、当協議会の経営環境は依然厳しいものがあり、こうした情勢は当分は続くものと考えられます。しかし、その一方で、企業や芸術団体だけでなく行政や市民も含めた社会の当協議会に対する期待が大きくなっていくことも事実です。これらに対応できる協議会の体質にしていくことが8年目に入ったこれからの課題であると考えます。96年度は運営委員会を設置しこの課題を検討してまいりました。97年度からは当協議会の基盤を強固にするための具体的改善に取り組むとともに、目前にせまった21世紀における当協議会の活動の基本方針を見定めてゆきたいと考え、以下の諸活動を中心に進めてまいります。

- ①事業費配分の適正化をはかる。
メセナ大賞、メセナ白書、メセナ誌といった三大事業を中心に業務の見直しを行い、経費の削減も含めたバランスのとれた事業費の運用を図る。
- ②当協議会の導入可能な新事業を検討する。
会員企業のメセナ活動に貢献し、芸術団体の要請にも応えるためには、メセナコーディネート事業が必要と考えられるが、その方法は如何にすべきか、何が可能かを検討していかねばならない。また、当協議会のデータをどのように整備したら会員や芸術団体に役立てることができるか。このような課題についてプロジェクトを組んで検討に入る。
- ③国際ネットワークづくりに協力する。
特に、Asian Council(仮称)の設立に韓国やオーストラリアと協力して推進する。
- ④個人会員問題に取り組む。
将来、個人会員をどのように取り込むかについて検討を開始する。
- ⑤NPOへの対応
芸術団体とNPO、企業メセナとNPOとの関係を研究し、メセナの観点からの行政への提言等を検討する。
- ⑥新事業として
刊行物「メセナへの道」(仮題)の発行に着手
- ⑦欧州視察団をフランスに派遣
を実施する。
具体的には次の事業を行なってまいります。

1. 1997年度収入計画

1.1 会費収入

1997年 4月 1日の会員数は正会員は172社474口、準会員44社47口となる予定です。

1997年度の予算編成上の獲得目標口数を一応、正会員 7口合計 481口、準会員 3口合計50口とし、会費収入合計額12,615万円を見込みました。

1.2 事業収入

メセナ誌の売上収入 130万円、メセナ誌広告収入 400万円、セミナー等の参加費収入 18万円、メセナ白書売上収入 130万円と見込んで事業費収入計 678万円としました。

1.3 雑収入

受取利息などで、50万円を見込んでおります。

1.4 助成金収入

当協議会を経由して支援する助成金を14,024万円と見込みました。

以上1997年度単年度の収入合計は27,367万円となります。

2. 事業計画

2.1 啓発・普及事業

2.1.1 企業メセナセミナー

会員企業のメセナ担当者を対象に、企業メセナの実務を修得することを目的に行っている企業メセナセミナーは96年度を基本的に踏襲してまいります。

(1)企業メセナセミナー入門編

異動等により、初めてメセナ部門の担当になった方々を対象にメセナ活動の基本的な考え方を多方面から理解していただきます。97年度も東京と関西で各1回ずつ開催いたしますが、未加入企業の参加も呼び掛ける公開講座といたします。

(2)ケーススタディ・シリーズ

会員企業のメセナ活動を相互に紹介するケーススタディ。その他、メセナ担当者がかかえる諸問題について情報交換を行うセミナーを開催いたします。97年度は東京4回、関西2回開催します。

(3)アートセミナー

1996年度まで、芸術の各分野についてより深く理解する場とし、1分野10回シリーズの「アートを学ぶ」シリーズを実施してきました。97年度からはこれまでの定例会、ギャラリー散歩を吸収したアートセミナーに改め次の3つのシリーズで開催してまいります。なお、このセミナーは一部一般公開で行います。

①フォローセミナー

メセナ誌の新コーナー「おすすりびング・アート情報」で紹介されたアーティストと執筆者を講師に、作品解説、アートの現状分析、意見交換を行なうもので、6ジャンル年1回ずつ開催します。(一般公開)

②アート環境を考える

現在アートがおかれている状況を報告し、国や地方自治体の文化政策、企業メセナはそのために何をしているか、何が出来るかを考えます。ジャンルにこだわらず年3回開催します。

③アートフィールド視察研修

新しい文化施設を視察したり、ワークショップやギャラリートークに参加するなど、アートの現場を体験します。年3回開催します。

2.1.2 アート・マネジメント講座

現在、地方自治体では文化施設の運営や文化事業に携わる専門的人材の育成が急務とされています。東京都などの自治体や企業と協力してアート・マネジメント講

座の開催（内容を当協議会で企画）をすすめてまいります。これは、将来実施が考えられるメセナコーディネート活動のテストケースと位置付けたいと考えます。

2.2 情報収集・仲介事業

2.2.1 メセナ誌

95年度は32頁から40頁に増頁し内容充実を図りましたが、97年度はさらに読者層をひろげるためにリニューアルを図ってまいります。

(1)見やすい、読みやすいものにします。

- ①総ページ数を増やし本文56ページとし、背表紙をつけます。
- ②写真のページを増やします。
- ③表紙をリニューアルし目立つようにします。

(2)企業情報を増やし、企業に魅力ある内容に努めます。

- ①メセナ大賞受賞企業のトップインタビュー
- ②企業のメセナ情報
- ③メセナセミナー報告

なお、ニューズレターM'sはメセナ誌と合併します。

(3)新連載をスタートさせます。

- ①「おすすメリビング・アート情報」 発行後3ヵ月間に観るべき展覧会や公演の紹介
- ②「各地のメセナ組織の紹介」 広がりつつある各地のメセナ関連組織を紹介します。

2.2.2 ネットワーキング

95年11月に「ホームページ」を開設し、96年7月には会員相互の情報交換を容易に行なう目的で「メーリングリスト」の開設と「メセナ・ファックス・ボックス」の設置をしました。97年度は当協議会の蔵書や企業メセナ情報のデータベース化をすすめてまいります。

2.3 調査・研究事業

2.3.1 メセナ白書

『メセナ白書1996』では日本の企業メセナの特徴とも云える企業の芸術文化施設にスポットを当て、企業、アーティスト、市民の立場からこれらの施設についての調査を行いました。97年度版では企業がアーティストを対象に行なっている顕彰・懸賞事業の実態を明らかにしてまいります。

2.4 顕彰事業

2.4.1 メセナ大賞

7回目を迎えるメセナ大賞は広く社会から認められる権威あるものになってまいりました。97年度からは新しい審査委員によって審査されますが、賞の内容や運営方法等にも改善を図ってまいります。

2.5 国際交流事業

2.5.1 アジアにおけるメセナ・国際交流ネットワーク組織発足のための作業委員会の開催

1995年の「国際メセナ会議'95」で提唱されたアジア版セレックの設立については96年11月に開催された韓国での国際メセナ会議で Asian Council for the Arts (仮称) 設立のためのワーキンググループ設置が決まり、97年1月にその第1回作業委員会がオーストラリアで開催されました。第2回会合は98年2月に日本で開催することが決定し、そこで細目を討議決定したあと98年10月に発足することになりました。当協議会としては全面的に設立に協力してまいります。

2.5.2 第3次海外視察団の派遣準備

第3次海外視察団は「地方の芸術文化振興と企業メセナ」をテーマに仏への派遣を9月に実施いたします。

2.6 助成事業

1996年度助成事業のスルー金額は目標の14,514万円を大きく上回る約5億円となる見込みです。この制度を利用するアーティストや団体は増えてきておりますが、まだ、全国的には広く知られていないとは云えないので、97年度もさらにPR活動に力を入れてまいります。

2.7 中期構想の具体化

中期構想を具体化するため、1996年度は

①全国メセナ組織連絡会を結成し、ネットワーク作りに着手。

②地方のメセナ組織結成の動きを支援。

③若手担当者セミナーの実施。

を行いました。地方のメセナ組織については、横浜と甲府に新たにメセナ組織の誕生をみる事が出来ました。97年度も引き続き各地のメセナ組織結成に協力してまいります。

2.8 「メセナへの道」(仮題)の刊行

メセナをテーマにした刊行物がありますが、当協議会自体が編集した出版物は「メセナ」誌と「メセナ白書」だけです。発足8年目に入ったこの時期に、21世紀におけるわが国メセナ活動の充実・拡大のための基石となりうる活字資料を刊行することは意義あるものと考え、刊行本「メセナへの道」(仮題)の出版に着手してまいります。

2.9 長期ビジョンの策定と検討

96年度には運営委員会を設置して、21世紀に向けて、当協議会の進むべき方向、役割、事業、経営基盤等を検討してまいりました。その結果に基づき次の活動をしてまいります。

(1)文化顧問団の設置

「21世紀メセナビジョン委員会」の構想を再検討し、文化顧問団を設置し、顧問団と企業トップとのコミュニケーションの場を設けることにより、企業メセナの進むべき方向を考える機会とします。

(2)検討プロジェクトの設置

当協議会の将来に関する次の重要テーマについて、会員企業・関連団体・有識者によるプロジェクトを設置し検討してまいります。

①NPO

②データの整備

③メセナコーディネートの方向

④個人会員